

最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

大切にしたいこと

寒川町立旭が丘中学校

三年 勝村 菜々美

九十五歳で亡くなった私の曾祖母は地域の人から好かれる、ちょっとした有名人でした。「大きいおばあちゃん」と呼ばれ、親しまれていた彼女は名前通り大きな心をもった優しい人でした。それとは別に、過去に地域の病院で婦長を務めたことがある立派な人でもありました。そんな曾祖母も元気で長生きだったものの、年を重ねるごとに物忘れが激しくなり、できることが少なくなっていきました。そんな姿を見て、一時は老人ホームなどの施設に入居させることも考えましたが、本人がそれを拒んだため、自分達で介護することを選びました。しかし、曾祖母の家へ行くためには隣の市へ行く必要があり、つきっきりで介護することは難しく、毎日を通うことはできませんでした。さらに、もともと少し弱かった心臓や高血圧の

ことで通院していたこともあり、一人で過ごす日ができてしまうことに心配がありました。そこで平日の五日間、訪問して家事の手伝いや介護してくれるヘルパーの方や訪問看護師の方にお世話をしてもらうことにしました。休日は私達が訪れ、掃除をしたり、一緒に昼食を食べたりして過ごし、週末は曾祖母に合わせた生活になっていきました。こうして曾祖母の介護に奮闘する日々が始まりました。

介護の日々が始まってから、様々な問題に頭を抱えました。私達が一番悩んだのは食事のことでした。ヘルパーさんは曾祖母のために昼食を用意してくれることが多々ありました。曾祖母が昼食を食べ始める前にヘルパーさんは帰ってしまうのですが、翌日に様子を見に行くと昨日の昼食が手つかずで残っていることばかりなのです。「昨日の昼食は代わりに何を食べたの。」と尋ねるとよく「あんパンを食べた。」と答えていました。あんパンは曾祖母の大好物でおやつとして用意していたのですが、どうやらあんパンなどの甘いお菓子のみを昼食として食べているようでした。曾祖母の娘である、私の祖母は健康や栄養のことを心配し、昼食をしつかり食べてお菓子を昼食代わりにしないように普段より一段とキツク叱りました。しかし、私の父は「残り人生はそれ程長いわけではないのだから、好きにさせればいいのではないか。」と言います。私は二人の意見に複雑な気持ちを抱きました。もちろん祖母の意見は曾祖母の健康にとつて一番の解決策だとは思いますが、しかし、同時に曾祖母の健康を思うことだけが、彼女を大切に思う気持ちではないと思うのです。好きなことを自由にする姿を尊重して、認めてあげたい。でも、健康で長生きであってほしい。一つの共通な気持ちか

ら生まれた二つの愛の形が私の葛藤を生みました。結果的に私達はきちんと昼食をとって、お昼を食べ終わった時間を見計らってあんなパンを持つていたりしました。

曾祖母が亡くなった今、この選択が最も良かったのか、効果があつたのかはわかりません。また、どちらの選択が曾祖母にとって良かったのかもわかりません。この問いに正解がないのと同じように介護に正解はないと思います。しかし、正解はありませんがヒントならあります。私達家族は曾祖母の健康を大切にしたいと思い、根気よく介護することを選びました。それを大切にできたことで私達は自分達の選択に後悔はしませんでした。介護をするうえで大切にしたいことはなんですか。それが介護の行く先を左右するヒントなのかもしれません。